

北海道伊達市出身。

自然と人にやさしい建築デザインを専門とし、

建築デザイン事務所ビオプラス西條デザイン主宰。

オーガニックな暮らしをライフワークに、

仲間との有機農園やマーケットの運営、

講演会やワークショップなども企画、開催している。

オーガニックな 住まいをつくる 仕事人になる



平成26年度 建築研究所すまいづくり表彰 地域住宅奨励賞 受賞 菜園付きエコアパート「かたくりの里 とうべつ」

僕に人生の転機が訪れたのは、もう20年ほど前のことだ。食物に例えるなら、無農薬無化学肥料の野菜のような、オーガニックな住まいだけを作る仕事人になったのだ。そのきっかけは、僕と家族のための家づくりだった。店舗デザインの事務所と一緒に自邸の建築を考えていた時、住まいの建材や塗料・接着剤などから放出する化学物質が原因で、さまざまな健康障害が起きていることを知った。家族がアトピーやアレルギー体質だったこともあり、健康な住まいの必要性は自分の事としてリアルに感じ、素直に受け入れられた。家が原因で病気にならない、家族の健康を守るために家のづくりをしよう。そして、具体的にどのようにしたらそんな理想の家が出来るのか? 安心安全な建材探るといわれている。

平成15年の建築基準法改正で、健康に影響のあるいくつかの化学物質の使用量が規制されたが、環境過敏病の症状を訴える人は後を絶たない。この規制により制限を受けた化学物質の数は、たったの13物質だったのだ。昨年厚生労働省から、シックハウス症候群など体調不良を引き起こすおそれのある新たな3つの化学物質について、室内濃度の指針値が定められた。同時に、すでに制限されている4つの化学物質についても、規制を強化する新指針値案が公表された。しかしアレルゲン物質が人それぞれ違うように、とても安心できるレベルではない。住まいに潜む化学物質、その数は数千種類。身の回りのあらゆる所、あらゆる物

20年ほど前のことだ。食物に例えるなら、無農薬無化学肥料の野菜のような、オーガニックな住まいだけを作る仕事人になったのだ。そのきっかけは、僕と家族のための家づくりだった。店舗デザインの事務所と一緒に自邸の建築を考えていた時、住まいの建材や塗料・接着剤などから放出する化学物質が原因で、さまざまな健康障害が起きていることを知った。家族がアトピーやアレルギー体質だったこともあり、健康な住まいの必要性は自分の事としてリアルに感じ、素直に受け入れられた。家が原因で病気にならない、家族の健康を守るために家のづくりをしよう。そして、具体的にどのようにしたらそんな理想の家が出来るのか? 安心安全な建材探

しに没頭しているうちに、いつの間にか健康な家づくりが仕事になっていた。

20年経った今では、喘息やアレルギー・過敏体质の人達の家づくりの依頼が多くある。住まいの室内空気汚染の原因である、有害化学物質を含む建材や塗料の使用を減らすことが、健康への負荷をかけないことになるのだが、どこまでやれば良いのか・・・そこまでやらなくてでも良いのでは・・・判断するのはなかなか難しい。なぜなら、人には化学物質をある程度まで受け入れられる許容量があり、分解する治癒力もあるからだ。しかし、その能力は人それぞれ。実際にどこまで許容可能なのかは誰にもわからない。大げさだと思うかもしれないが、今までピンピンしていた人が、突然の体調不良に襲われる可能性がある。

また、現代人が食事における栄養バランスの崩れや、ストレスによる免疫の低下により、有害化学物質に対して抵抗できなくなってきてることも、影響しているのかもしれない。ある研究機関の調査では、子供の頃からある程度「非衛生的」で、雑菌などに触れながら暮らしている方が、アレルギー体質にならないと調査結果が報告されている。大人が一日に呼吸する空気の重量は20キロ。ふだんの暮らしで、きれいな水を飲み、健康に育った肉や安全な野菜を食べるのと同じように、室内の綺麗な空気はとても大切なのだ。家づくりを始めた当初は、出来るだけ有害化学物質を含まない建材を探すところから始ましたが、今では、無垢の木と無添加自然素材の建材だけでも家をつくることができるようになった。オーガニックな住まいは、ナチュラルで快適な暮らしを実現し、環境過敏症のリスクを低減することにつながるのだ。